秋葉区

地域コミュニティ協議会名称

# 新津中央コミュニティ協議会

活動名称

## にいつの史跡を訪ね歩こう その2 「石油の発祥地を訪ねる」

世帯数

約4,000世帯

## 活 動 内 容

「にいつの史跡を訪ね歩こう」を平成19年度からの引継ぎテーマとして事業を実施しました。（なお平成20年度は新津中央スポーツ振興会との共催による合同ウォーキングです。）

石油にかかわる史跡を訪ね、金津の中野家と双璧を為した新津の真柄家探訪および石油の発見の地「煮坪」等を訪ね、途中、当協議会のスポーツ振興会のスタッフによる心のこもった豚汁をいただき、なごやかな昼食を楽しみました。

にいつ石油の発祥地コース

新津本町二番館（出発） － 明治天皇新津行在跡 － キンカ地蔵 － 安吾文学碑 － 柄目木船附場 － 真柄家大ケヤキ － 二之堰 － 桃源橋石油 － パイプライン跡地 － 煮坪（石油発祥地） － 熊沢トンネル（石油運搬用道路） － 手掘石油井戸 － 秋葉湖キャンプ場（豚汁・昼食） － 秋葉神社 － 良寛歌碑 － 七色の池 － 幸清水（解散）

## 実 績 ・ 効 果

前年度の反省にもとづき小学校にポスターを掲示しチラシを配布、各町内会回覧等により周知を図った結果、危ぶまれる天候ではありましたが前年度より多数の参加者を得ました。

参加者は自分たちの住んでいるところにこのような場所が存在すること、また先人の苦労により現在があることを理解しつつ感動をおぼえたようです。

今後もこの種の企画を継続していきたいものです。

地域コミュニティ協議会名称

# 阿賀浦コミュニティ協議会

活動名称

芸能祭

世帯数

約 1,300 世帯

## 活　動　内　容

この芸能祭は阿賀浦コミュニティ協議会になってから２回目ですが、中新田・大安寺・東金沢の公民館時代からでは二十数回になる事業です。収穫を喜び祝う意味で農村地区に密着した神楽舞など伝統的芸能文化であったと言えます。

阿賀浦コミュニティ協議会設立に伴い東町、新金沢町という新興住宅の住民が加わることによって、この芸能文化活動が今まで培われてきた住民の絆とともに受け継がれ、さらにそれが広がり深まっていくことを願いながら平成20年度の芸能祭を実施することにしました。

阿賀小学校体育館を会場に約500人の観客が５町内60人が演じる22種目の熱演に見入っていました。

運営には年度ごとに当番町内が会場設営・舞台装置（含音響装置）・反省慰労会設営などに当たり、計画は町内会役員会で立案し、コミュニティ協議会運営委員会の承認を得て実践に移しました。

【種目】①伝統芸能②舞踊③三味線④コーラス⑤レクダンス⑥寸劇ほか

## 実 績 ・ 効 果

今回は従来の古風な演目に加え、学童保育（キッズクラブ）の子どもさんたちの総踊り「ヨサコイしゅうちしん」やレクダンスのような今様な演目がリズムに合わせ元気いっぱいに繰り広げられる場面もありました。

昨年度町内個々に演じていた銭太鼓は大安寺、東金沢、新金沢町合同で交流を工夫した演出で行なわれました。さらに銭太鼓の演者と交流があるという阿賀町豊実のサークル８人の方が応援に来場されました。

芸能祭の事業全体をとおして３町内の分館時代からの交流の絆が５町内につながり、広がり、さらに深まったという様相が見受けられたことは大変嬉しいことであったと評価したいと思います。

地域コミュニティ協議会名称

# 金津コミュニティ振興協議会

活動名称

ふるさと塾

世帯数

約2,570世帯

## 活　動　内　容

金津地区は従来から歴史や伝統を大切にする気風があり、小学校等でも昭和初期から郷土教育に熱心な土地柄として近隣にも知られていました。

しかし近年は土地開発等による団地化で、金津の風土や気風が薄れつつある状態であります。

今日の地域づくりやコミュニティの重要性を思い、地域住民が地域の歴史や伝統を学ぶことによって、地域に親しみ、人の絆の大切さを認識すること等を目的とした「ふるさと塾」を開設することとしました。

平成20年度を初年度とし「八幡山遺跡あれこれ」・「地域内のお寺巡り」・「地域内の神社あれこれ」・「地域に伝わる昔話、伝説」・「金津地域の生んだ偉人、築いた人々」として、５回の講座を設け実施しました。

講座資料として金津小学校で昭和７年に発刊した『郷土趣味読本』を復刻し、かつての金津地区の精神風土の一端に触れることとしました。参加者は当初の予想を上回る70名でした。

今後は将来を担う子どもたちの参加機会を設け、学校の総合学習等の活用について協議し、また世代間の交流等老人と子どもたちの触れ合いの場としても活用していきたいと思っております。

## 実 績 ・ 効 果

これまで地域の歴史や伝統に関心のなかった人たちや、その年代層の人たちの中からも参加してよかったという声が聞かれ、次年度も是非「ふるさと塾」を開設してほしいという希望が多く寄せられています。

人々の心が通い合う地域づくりには、体育や文化行事も大切なことの一つですが、地域に誇りの持てるような歴史や伝統を学び、学習活動を通じ地区民が触れ合い親しみのある地域づくりに今後も努めていきたいものです。

地域コミュニティ協議会名称

# 小須戸小学校区コミュニティ協議会

活動名称

「地元学」小須戸町並み景観まちづくり研究会支援事業

世帯数

約 1,700 世帯

## 活　動　内　容

地元に残された歴史的に貴重な財産の再発見をテーマとして、地域が持つ素晴らしさを地元の人々と共に認識しながらまちづくり活動につなげることを目的としています。

平成19年度に「地元学地域のたから発掘活用事業」の補助金をいただき、多くの地域住民にその内容を知ってもらい、小須戸地域の町並みの価値を再認識させる活動を行ないました。

他地域と比較しても遜色の無い小須戸の町屋、雁木など、歴史的建物に着眼し、地域に埋もれた「小須戸にしかない素晴らしいもの」を住民と共に再認識してもらうための勉強会を７月と９月に開催。さらに、11月には実際に町並みを歩いて歴史的価値のある建物の中を見学させてもらい、住んでいる人の話を聞く「まち歩き」を実施。12月には新潟大学の准教授を招いて「町並みを活かしたまちづくりについて」の講演会を行いました。

## 実 績 ・ 効 果

平成20年度は「歴史的町並み再発見」をテーマとしたまち歩きを５月に実施。更に、先進地である村上の町屋視察を企画、住民に参加募集をし、30名で日帰り研修を行いました。

平成21年度は、これまでのまち歩きや先進地視察などで得た内容を活かした「まち歩きマップ」を作成し、９月にはマップを利用したまち歩きを行う予定です。

今まで見過ごされてきたもの、地域の住民ですらその歴史的価値を知らなかった町並みの良さを再発見・再認識し、地域の宝としながら、それに磨きをかけていく。地域の貴重な歴史的資源として、住民が認識し、それを活用しながら地域を大事に育て、子どもたちにとっても自分の町を誇りにすることができます。

また、他のイベントなどと連携しながら歴史的な町並みに風情を感じながら散策できることにより様々な活動や波及効果につながっていくことが予想され、地域の活性化、今後のまちづくりにもつながることになります。

地域コミュニティ協議会名称

# 白根コミュニティ協議会

活動名称

## 白根のたから発信プラン事業

世帯数

約3,500世帯

## 活　動　内　容

平成19年度に「白根のたから探検隊」として衰退傾向にある地域の価値（たから）を探し出す取り組みをしました。４回の講座を開催する中で、１回は「まち歩き」を実施し、最終的に白根の魅力を伝える13のプロジェクトを作成しました。

平成20年度は「白根のたから発信プラン」としてプロジェクトを具体化するために検討委員会を立ち上げました。検討委員会は８月から月１回開催し、その中で、今年度は白根の四九の朝市にスポットを当てることになりました。白根の朝市は、その歴史は古く、300～400年の歴史をもつと言われていますが、大型店舗の進出などの影響により、店の数、来店者数ともに半減したと言われています。

市場管理組合長のお話

地域内外に参加を募った結果、38名が参加し、11月９日に「白根の市日を探検！！」を開催しました。買い物したり、写真をとったりそれぞれ自由に散策する中で、途中で集合し、市場管理組合長のお話しを聞きました。また、市日散策の後、白根児童センターを会場に市日写真のフォトコンテストを開催しました。

初めて市日を歩いた人や数年ぶりという人もいて、スーパーとは違う市日の雰囲気や新鮮な野菜、果物、花などに驚いていました。そして、次回も開催してもらいたいという感想を多くの方からいただきました。

市日　四と九のつく日に開催

来年度は「まち歩き」を秋の定番として実施していきたいと考えており、さらには白根大凧合戦で凧づくりからの参加体験型のプロジェクトを検討委員会で計画しています。

## 実 績 ・ 効 果

平成19年度提案された13プロジェクトのうち、平成20年度はそのうちの１つを実施しました。初めてということもあり、参加者がなかなか集まらずに苦労しましたが、老人クラブの声掛けによるお年寄から、児童センターを利用している子どもといったさまざまな世代の方が交流する機会となりました。また、伝統ある白根の朝市、さらには新鮮な梨やぶどうなどの白根の特産物に触れ、地域の魅力を知ることができました。

この事業をきっかけにして、交流人口の拡大、市日や商店街の活性化が図られるよう活動していきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 大野校区ふれあい協議会

活動名称

## 郷土・黒埼の今昔を聞く会

世帯数

約3,200世帯

## 活　動　内　容

私たちの暮らしているまち「黒埼」。黒埼町という名称は新潟市と合併したことにより残念ながらなくなってしまいました。しかし、歴史のある郷土・黒埼の今昔についての知識を深め、また、若い世代に語り続けることにより、歴史・伝統・文化が引き継がれていくこと。さらに、心豊かな人格を形成することを願って黒埼郷土史講演会を実施しています。この「郷土・黒埼の今昔を聞く会」は、平成18年度から毎年開催しています。

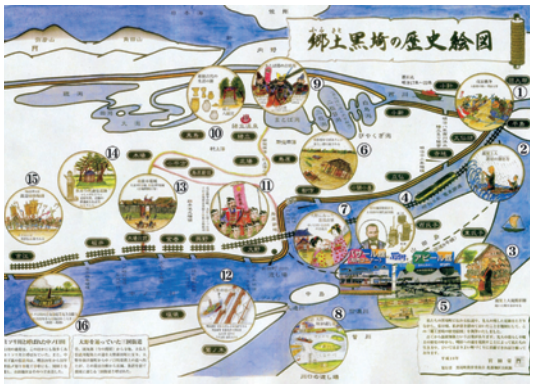
講師には、地元、黒埼在住で「黒埼の今昔」などを執筆された宮田栄門先生をお招きし、大変貴重なお話を聞かせていただき「黒埼」に関する知識を深めています。

第１回の講演会では、黒埼村が誕生するまでの移り変わりや山田・善久が黒埼村に合併した経緯、大野の娯楽施設などについてのお話を聞かせていただきました。

また、第２回の講演会では、「新潟電鉄の開通から廃止まで」と題して昭和８年の電鉄開通までのエピソードや土地の買収にかかる苦労話などをビデオを見ながら紹介していただきました。それから、平成10年８月４日の大水害により多くの方が被災されました。その被害状況について、当時の黒埼町役場（現黒埼出張所）付近の様子をビデオで映像を見ながら説明をしてくださいました。

そして、第３回の講演会では、「郷土黒埼の歴史探訪」と題して越後七不思議のひとつ、親鸞上人の焼鮒伝説や波切りの御名号などの有名なお話しと善久・山田に陸軍飛行場があったこと、そして、宮田先生が自ら作った「郷土黒埼の歴史絵図」を見ながら昔の地形や出来事などのお話を聞きました。

興味深く聞き入っている参加者




郷土黒埼の歴史絵図

## 実　績　・　効　果

この講演会は、平成18年から毎年開催しており今年で３回目を数えました。

黒埼の歴史･伝統･文化を詳しく聞くことができることから、興味のある方が多数参加しております。

普段、隣近所でも顔を合わせることが少なくなっているところですが、こういった機会に進んで参加することにより、地域の連帯感が強くなることを期待しています。

地域コミュニティ協議会名称

# 巻地区まちづくり協議会

活動名称

まき夏まつり

世帯数

約5,700世帯

## 活動内容

当協議会は、旧巻町の市街地を中心とする人口16,000人規模のコミュニティ協議会です。

新潟市内の夏祭りのトップを切って行われる「まき夏まつり」は、平成18年度以前は行政が主導的に祭りの協賛行事を行っていましたが、平成19年度からは巻地区まちづくり協議会が他の団体と連携し、まつり実行委員会を立ち上げ、中心となって運営しています。

祭りの準備は、２月中旬頃から各方面との日程の打ち合せに始まり、露店の準備、花火の募集、協賛金のお願い等、手分けをして進め多忙を極めます。

祭りの初日（宵宮）は「巻甚句」と「やかたおけさ」を踊る大民謡流しで始まり、２日目は巻神社の神輿渡御にお伴する大人山車や子供山車、花火大会などが行われ、最終日は昼間の協賛行事の他に、市長を初めとして多数の来賓を招き、迫力あるやかた竿燈で幕を閉じます。

まき夏まつりは、地域住民が参加して盛り上げる当地域の最大の催しです。江戸時代から続く伝統ある祭りを地域全体で守り、育てていきたいと思います。

## 実績・効果

まちづくり協議会が実行委員会の中心的役割を果たすようになったので、協賛金や花火等で個人的に協力してくれる人が多くなってきました。一人一人が負担することで、「自分たちのまつり」という意識が強くなってきました。

地域コミュニティ協議会名称

# 峰岡地区コミュニティ協議会

活動名称

## 北国街道のＰＲと環境美化

世帯数

約 1,300 世帯

## 活　動　内　容

江戸時代に脇街道として整備された北国街道は、峰岡地区はもとより西蒲区としても大切な文化遺産であり観光資源です。

それを広く地域内外へＰＲし、環境を整備して守っていくことが大切であると認識し、平成20年度は以下を計画・実施しました。

⑴　北国街道名所旧跡めぐりとパンフレットづくり

10月13日に開催、地区の人はもとより市内各地域から大勢の皆さんの参加がありました。

講師２人に道案内をお願いし、街道沿いの馬頭観音、古い道しるべ、芭蕉句碑、三根山藩歴代藩主の墓などを見学しました。

この後、北国街道のパンフレット2,600部を作成、地区の各世帯と市内各所に配布し、理解とＰＲにつとめます。

⑵　北国街道クリーン作戦

11月16日に各自治会から大勢の参加を得て、北国街道を歩きながら、空き缶、ペットボトルなどのゴミひろいを行いました。

今後も、環境美化につとめます。

## 実　績　・　効　果

北国街道めぐりを実施した後、各自治会の関係者からコミュニティ協議会内に観光を考える部会をつくってはどうか、という意見が出ています。

組織の充実と地域の人たちの北国街道への理解を深める一助にしたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 西川地域コミュニティ協議会

活動名称

## 西川まつり傘鉾人形製作後継者育成事業

世帯数

約3,600世帯

## 活　動　内　容

西川まつりの傘鉾行列は、江戸時代から続く伝統ある祭事です。

西川まつりの時期になりますと、地域総出でまつりの準備が行われ、特に各町内から出される傘鉾人形（傘の上に乗せる、歴史上の人物などをモチーフにした人形）は、各町内が競って製作し、傘鉾行列を盛り上げているものです。

しかし、今まで傘鉾人形製作に携わっていた方々が高齢となり、人形製作が困難な状況になりつつあります。人形の製作が出来ないからといって、この伝統ある傘鉾行列をやめるわけにはいかないこともあり、だからと言って、京都等から人形を購入するとなると、数十万円の経費が掛かることになり、これを各町内で負担するということも非常に難しい状況です。

この状況を乗り越えて行くために、コミュニティ協議会、商工会、町部自治会、町内会の皆さんで協議した結果、人形製作の後継者を育成し、傘鉾行列を継承していくこととしました。平成19年度から「地元学地域のたから発掘活用事業」を活用して、コミュニティ協議会が中心となり後継者の育成事業を実施しています。

現在、月３回を目途に経験者の技術指導を受けながら実際に傘鉾人形製作に携わってもらい、約６名の方を傘鉾人形製作者として養成しているところです。

## 実 績 ・ 効 果

平成20年新たに製作した人形は11体で、大きな成果が上がっています。技術的には未熟な点も見られますが、今後が期待されます。

この年も傘鉾行列は盛大に行われ、町内の皆さんにも「良くできた」と好評で、後継者の育成が進んでいることに安堵している様子がうかがえました。